

学生支援の現場から

◆東京家政大学

こんな時代だからこそ自分で生きていける力を

岩井 絹江

(進路支援センター事務部長)

東京家政大学では『自分に合った進路・適職を得て、社会と関わりながら自分らしく生きる自立した女性』の育成を目的に入学前から卒業後、さらに同窓会各県支部と連携して生涯を通し、一貫してサポートし続けています。

一〇年前に学内業務の一元化を図り、入試と就職の両方を担当する進路支援センターを設け『育てたい人物を得るための入試・広報から、なりたい仕事に就くための就職支援』までを担当しています。

さらに『人間力育成と専門教育充実のための強力な学生支援体制の確立』や資格取得支援、学びの幅を広げるための早稲田大学等他大学との単位互換制度のさらなる充実を目的に、新たな学生支援組織として教育・学生支援センターを発足させ、進路支援センターと共に柔軟な形で学生の力を育てる体制が整いました。

教育・学生支援センターと進路支援センターが開催する

年間百回にも及ぶ『学生支援やリーダー養成セミナー、この仕事に就くには講座』は将来の自分を考え、自分の希望に合わせて受講でき、いきいき学ぶ学生の姿がさらに次の企画に繋がり、参加学生の積極的な声を取り入れながら次年度が企画され、年々充実しています。

人間教育・専門教育及び各種学生支援講座と共に、東京家政大学が重視していることは何よりも『人に関わる力』。教職員が教育や学生支援の現場で、自分の生き様を通じて学生を育てることは基本ですが、本学では一〇年前から約二〇名に及ぶ企業の人事部長や保育園園長、小学校校長、管理栄養士、福祉職など社会での現場経験・人生経験豊富な方々を進路アドバイザーとして依頼し、学生が望む時間に望む方と面談できるシステムを設けていますが、年齢の離れた人と交流の少ない学生や親元を離れて暮らす学生にとっても、安心して頼れるとても大きな存在です。多様な人からアドバイスの受けられるこのアドバイザー制度は一〇年前に発足。保護者からも「信頼して相談していることが子どもから伝わってくる」などの評価を受けています。さらに、ヒューマンライフ支援センターや地域連携協力推進センターは『学生の社会と関わる力を育てる場』として多くの学生が活用し人間としての幅を広げています。図



コミュニケーショングループ活動
(りんどう湖ロイヤルホテルにて)

を建学の精神に、経済的に自立すること
で精神的にも自律した女性を育成し続けている大学で、一〇万人の卒業生を社会に輩出しました。特に人間力を必要とする教員・保育士・栄養士や服飾・心理・福祉系、企業の人事など人に関わる分野

図書館や保健センター、研究室隣接の学生指導室、自由に使えるコンピュータ室やラウンジなど居心地のいいスペースを必要に応じて活用できます。これら全学が一九となった学生支援の様々な取り組みは、大学教育改革支援GPでも、ここまで五件が評価され、進行中です。
一、二九年前の明治時代、女性が職業を持つて生きることが稀有な時代に、校祖渡辺辰五郎は東京女子師範学校で裁縫教授を務める傍ら、『裁縫教員の養成』を目的として大学の前身を本郷湯島に創設しました。「女性の自主自律」

で多くの卒業生が活躍しています。

平均寿命が長くなり人生百年の時代に入ろうとする今、「長い人生を自分の個性や能力を発揮し、社会と関わりながら自分らしく生きる人間をどう育てるか」が



ワークショップ:デジタル紙芝居(9月14日)
(りんどう湖ロイヤルホテルにて)

高等教育機関の大きな使命となっています。職業生活や社会参画などの継続を自らが望んでも、女性は出産・子育て・介護など生活面での影響を受けやすく、長引く不況下で就職・再就職の困難さなど様々な制約を受けています。

女性がいい形で職業を継続するには、自分の将来の姿や仕事など『自分の考える幸せとは何か、何のために働くのか、どんな仕事をしたいのか、どんな人生を過ごしたいのか』など人生設計・キャリアプランを早期に持ち、計画的に人生を過ごすことが不可欠だと考えています。本学では、



学内企業セミナー（12月24日）
「クリスマスより就職」と真剣な学生の姿

高校教育を人生設計・自己実現の準備期間、大学教育を最終準備期間と捉え、二十余年前より入学前準備教育や進路支援など高大の連携教育に努力を重ねてきました。

近年ではキャリア教育として様々な大学で行われることが一般的になりましたが、本学では一二九年前に創立者が『女性が経済的に自立するための職業教育・職業人養成の必要性』を指摘し、様々な形でその後の東京家政大学の教



数学基礎講座 宮塾

月～木の18:00～19:30

授業ではない、時間外講座なのに、いつも真剣に受講する学生であふれています。

育に継続されています。今も、これからも女性だからこそ、さらにこんな時代だからこそ必要とされる『経済的自立』自分で生きていける力』を持った精神的に自律した女性を育成し続けるために学内一丸となって学生支援を推進してまいります。